

平成 29 年度 第 1 回高知市口腔保健検討会 資料

【目次】

■ 高知市口腔保健検討会設置要綱	1
■ 高知市口腔保健検討会委員名簿	2
■ 関係課名簿	3
■ 議事資料	
○ 高知市の現状について	4
○ 口腔保健支援センターの取組	10

高知市口腔保健検討会設置要綱を次のように定める。

平成26年12月5日

高知市長 岡崎 誠也

高知市口腔保健検討会設置要綱

(設置)

第1条 地域住民の歯科疾患の予防等による口腔の健康の保持を推進させることを目的として、地域の状況を踏まえた歯科口腔保健施策の具体策等を検討するため、高知市口腔保健検討会（以下「検討会」という。）を置く。

(所掌事項)

第2条 検討会は、次に掲げる事項について検討を行うものとする。

- (1) 高知市口腔保健支援センターの運営に関する事項
- (2) 歯科口腔保健に関する情報提供、普及啓発、研修等に関する事項
- (3) その他歯科口腔保健の推進のために必要な事項

(組織)

第3条 検討会は、委員10人以内をもって組織する。

2 委員は、地域の保健、医療、社会福祉、労働衛生、教育その他の関係者のうちから、市長が委嘱する。

(会長及び副会長)

第4条 検討会に、会長及び副会長を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 会長は、会務を総理し、検討会を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を行う。

(委員の任期)

第5条 委員の任期は、委嘱の日から当該委嘱の日の属する年度の翌年度の3月31日までとする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

第6条 検討会の会議は、会長が必要に応じて招集し、会長が議長となる。

(資料提供その他の協力等)

第7条 検討会は、その所掌事務を遂行するため必要があると認められるときは、関係部局その他の者に対し、資料の提供、意見の表明、説明その他必要な協力を求めることができる。

(庶務)

第8条 検討会の庶務は、健康福祉部健康増進課において処理する。

(その他)

第9条 この要綱に定めるもののほか、検討会の運営に関し必要な事項は、会長が検討会に諮って定める。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成26年12月5日から施行する。

(会議の招集に関する特例)

2 この要綱の施行の日以後最初に開催される検討会の会議は、第6条の規定にかかわらず、市長が招集するものとする。

分野	氏名	所属・職名	備考
地域保健・医療	山村 栄一	高知市医師会 理事	
	宮川 慎太郎	高知市歯科医師会 専務理事	
	田岡 太郎	高知市歯科医師会 常務理事	
	竹島 定江	高知市薬剤師会 副会長	
	植田 彩子	高知県歯科衛生士会 会長	H29. 9 委嘱
社会福祉	中山 裕司	高知市民営保育所協議会 副会長 (あおい保育園長)	
労働衛生	上原 由美	全国健康保険協会高知支部 保健専門職	
教育	伊藤 浩昭	高知市立小中義務教育特別支援学校長会 (高知市立昭和小学校長)	
	大野 由香	高知学園短期大学医療衛生学科歯科衛生専攻 教授	
団体	前田 修一	高知市小中学校 PTA 連合会 会長	

■ 高知市口腔保健検討会 事務局・関係課名簿

【平成 29 年 9 月】

【事務局】

所属	職名	氏名
高知市健康福祉部保健所	保健所長	堀川 俊一
	健康増進課長	池内 章
	健康増進課長補佐	山本 達也
	健康増進課健康推進担当係長（歯科医師）	上田 佳奈
	健康増進課主任（歯科衛生士）	大中 智美

【関係課】

所属	職名
高知市教育委員会	教育環境支援課
高知市こども未来部	母子保健課
	保育幼稚園課

高知市健康づくり計画の 評価と第2期計画にむけて (歯と口の健康づくり)

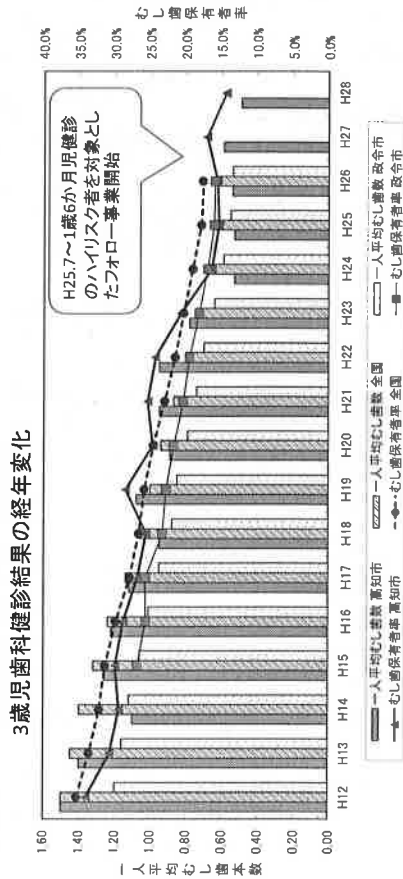
H29健康づくりアンケート結果と
高知市民の歯科口腔保健の現状

平成29年9月
高知市口腔保健支援センター

歯科健診結果から

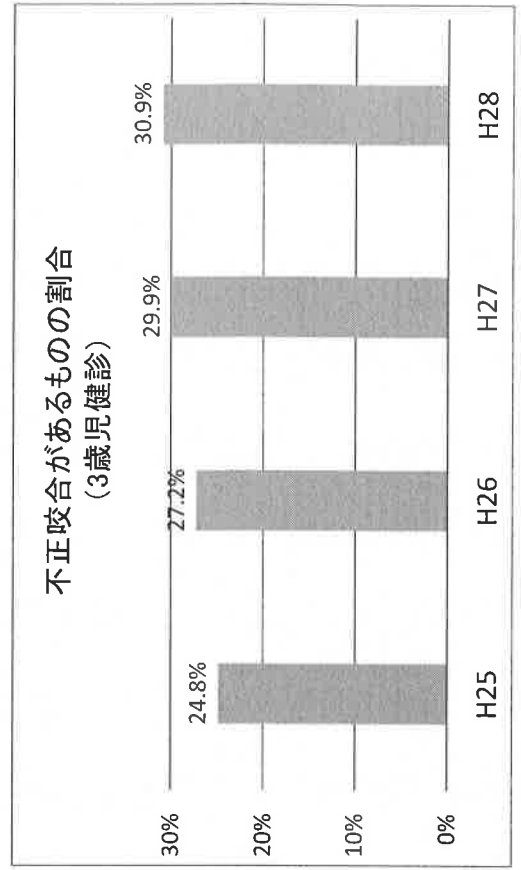
幼児健診結果の経年変化・問診から見える現状
学校保健調査の経年変化

乳幼児期 むし歯の現状



H24以降、全国よりむし歯は少なくな改善してきている

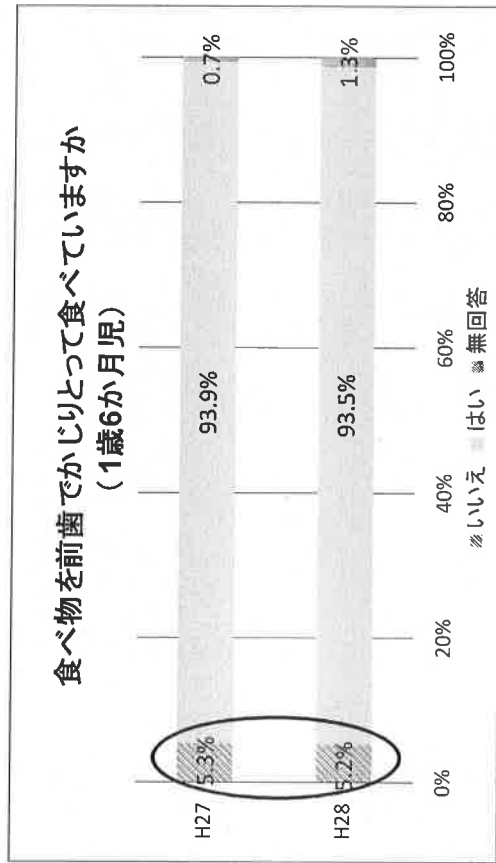
乳幼児期 不正咬合の現状 3歳児健診結果より



指標 乳幼児期のむし歯のないものの割合の増加
3歳児 79.3% (H23年度) → 85.6% (H28年度) 【84.0% (H28年度目標)】

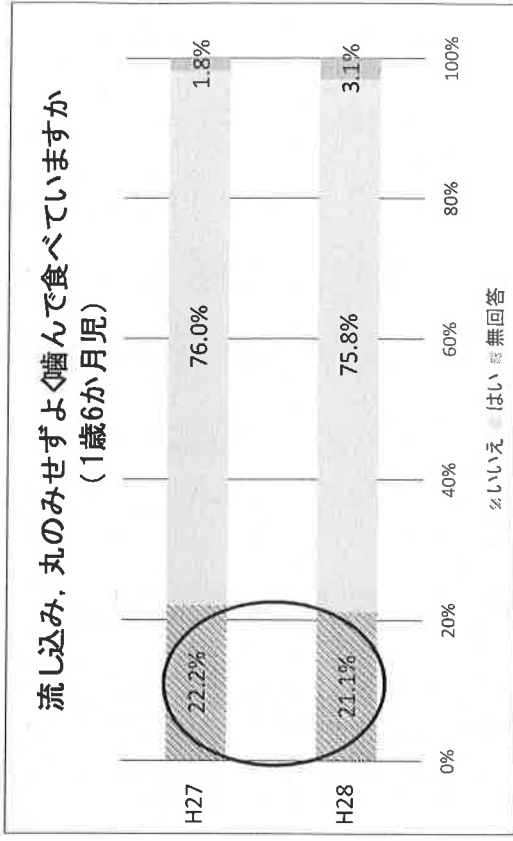
乳幼児期 咀嚼について

1歳6か月児健診問診より

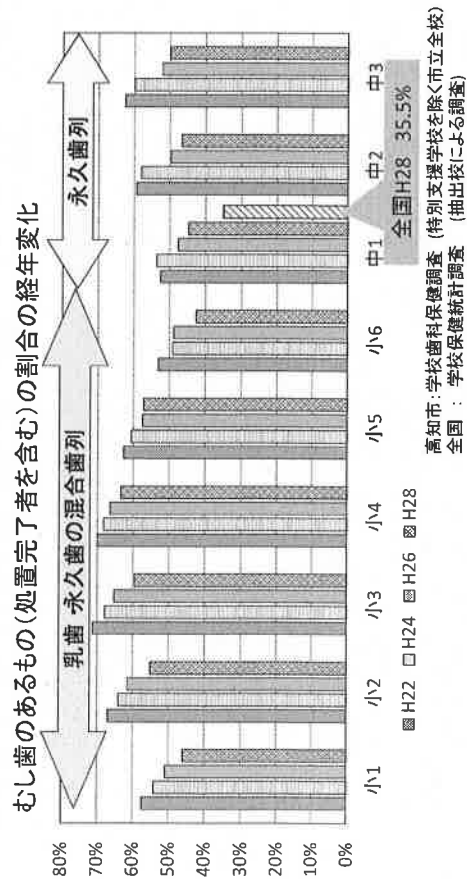


乳幼児期 咀嚼について

1歳6か月児健診問診より



学童期 むし歯の現状

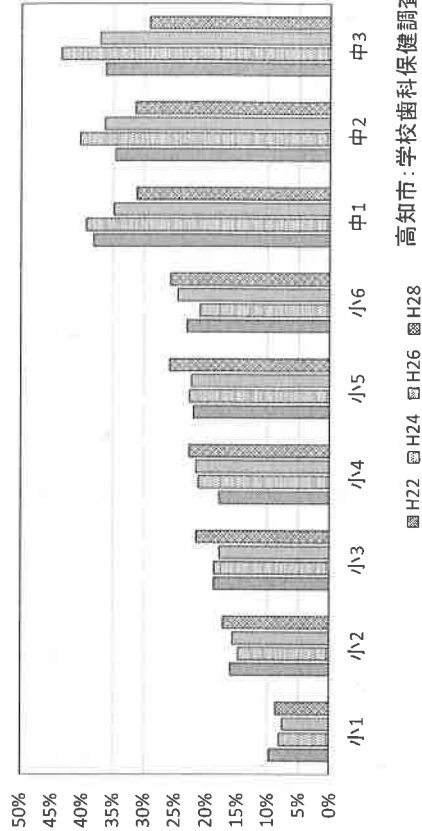


指標 学童期のむし歯のないものの割合の増加

12歳児 47.5%(H22年度) → 55.3%(H28年度) 【57.0% (H28年度目標)】

学童期 歯肉炎の現状

歯肉に所見のある者の割合の経年変化



指標 歯肉に所見のあるものの割合の減少

中学生 36.4%(H22年度) → 30.5%(H28年度) 【30.0% (H28年度目標)】

学童期 口腔衛生の現状

小中学校の屋食後の歯みがき実施状況

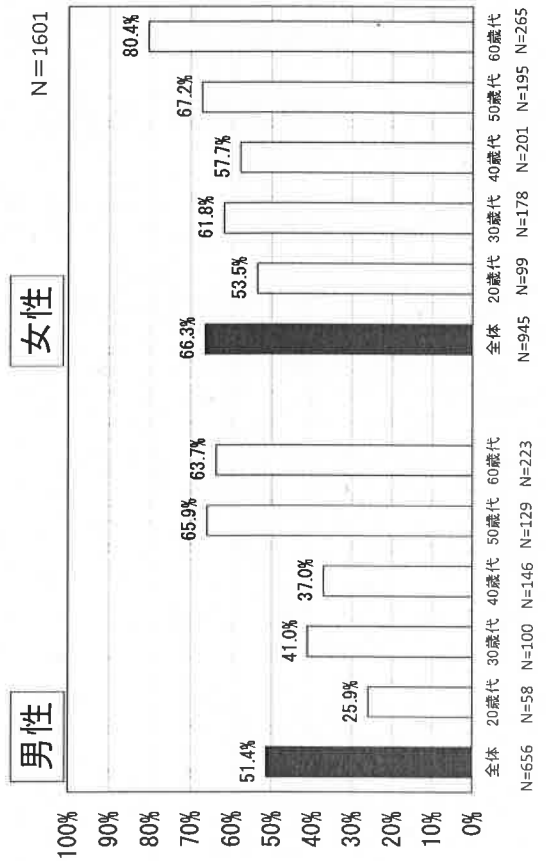
	小学校	中学校
愛媛県 (松山市) 校数:記載なし	100% (全校実施校の比率) 松山市内全校で給食後に「歯みがきタイム」を設定	88.3% (実施生徒人数の比率) 「時々」を加えると 95.1%
香川県 小学校:161校 中学校:68校	96.3% (全校実施校の比率) 給食後の一斉実施が多く、生徒個人任せは1校のみ	27.9% (全校実施校の比率) 歯みがき時間の設定は困難実施生徒数はかなり多い。
徳島県 小学校:186校 中学校:87校	68.2% (ほぼ全員実施校の比率)過半数実施校を加えると 90.3%	35.6% (ほぼ全員実施校の比率)過半数実施校を加えると 59.8%
高知県 (高知市) 小学校:41校 (回答校:31校) 中学校:19校 (回答校:12校)	14.6% (全校実施校の比率) 全校実施は6校のみ。 「学年により対応」3校を加えると 22.0% 「自主性」16校 「未実施」16校	5.3% (全校実施校の比率) 全校実施は1校のみ。 「学年により対応」10校 「自主性」3校 「未実施」8校

(資料提供:高知市歯科医師会 広報 平成28年11月号より)

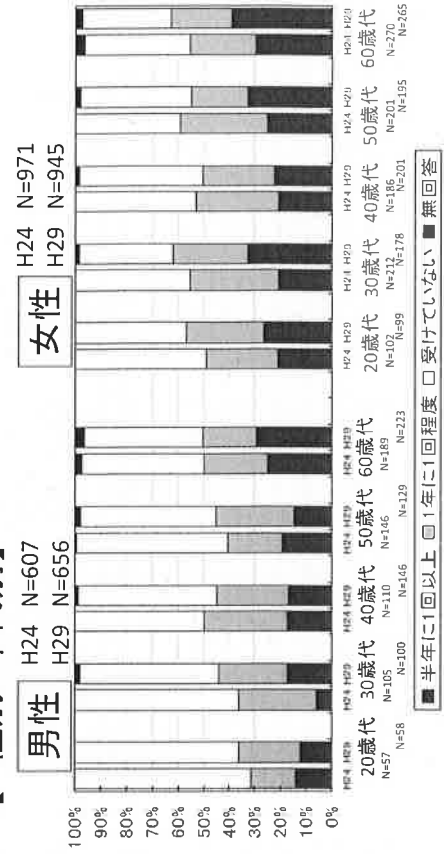
健康づくりアンケート結果から (歯科保健に関する項目)

前回(平成24年度実施)アンケートとの比較
全国との比較

かかりつけ歯科医のいる割合【性・年代別】



歯の健康づくりのために歯科受診している割合【性別・年代別】



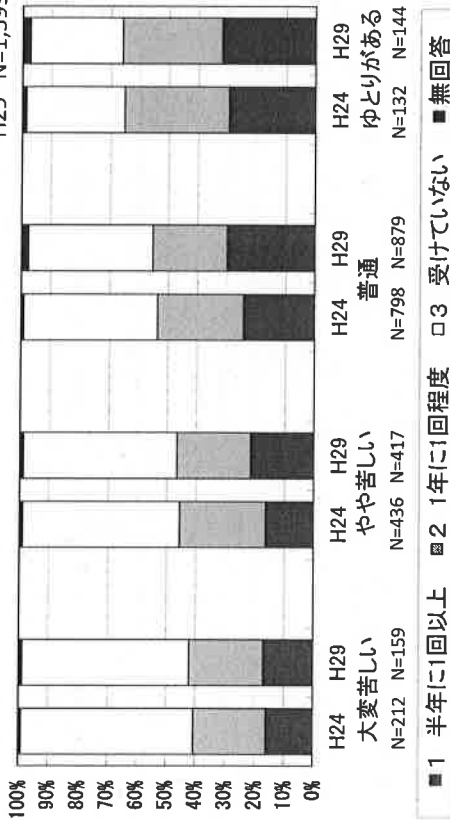
平成24・29年健康づくりアンケート調査

指標 過去1年間に歯科健診を受診した人の割合

50.4% (H24年度) → 52.8% (H29年度) 【60.0% (H29年度目標)】

歯の健康づくりのために歯科受診している割合 【暮らし向き別】

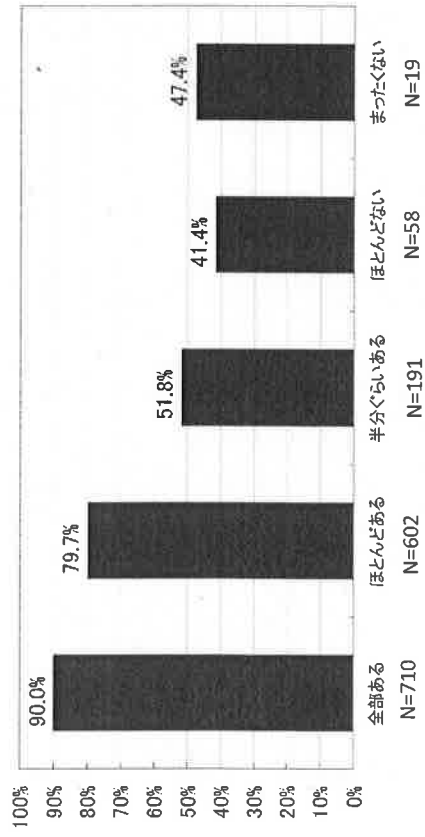
H24 N=1,578
H29 N=1,599



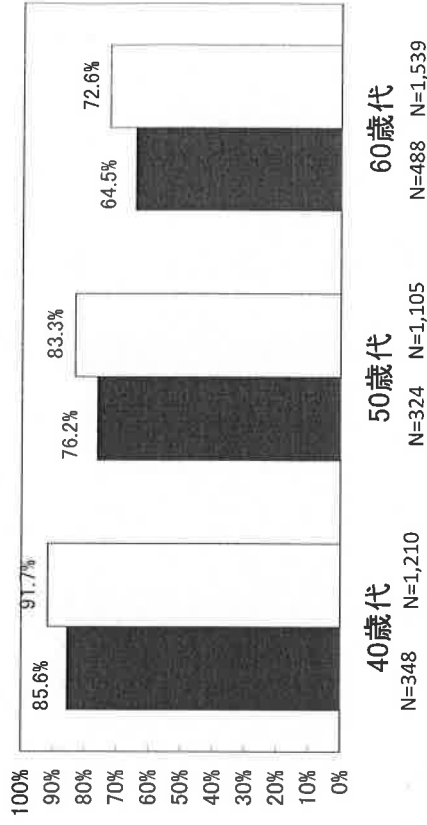
平成24・29年健康づくりアンケート調査

何でもかんで食べることができる人の割合 【残存歯の状況別】

N=1,580



何でもかんで食べることができる人の割合 【40歳以上、年齢別、全国との比較】

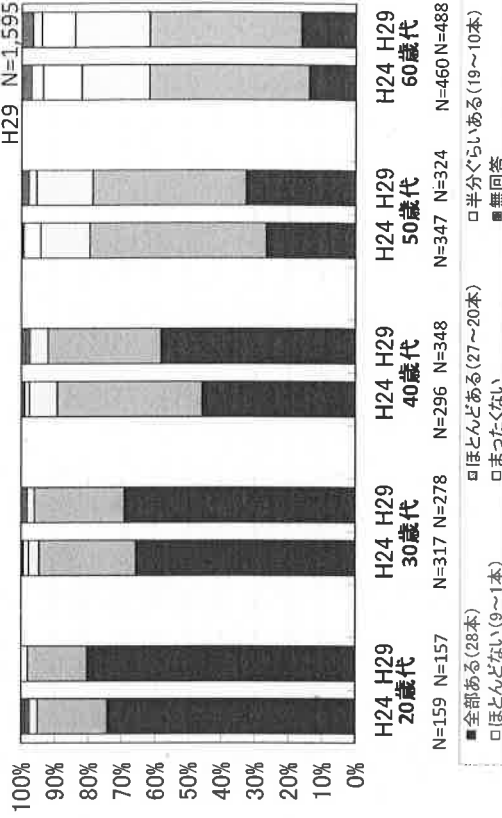


■ 高知市 (H29) □ 全国 (H27)

高知市:平成29年健康づくりアンケート調査
全国:平成27年国民健康・栄養調査

残存歯数 「あなたの歯の状態はどれに近いですか」

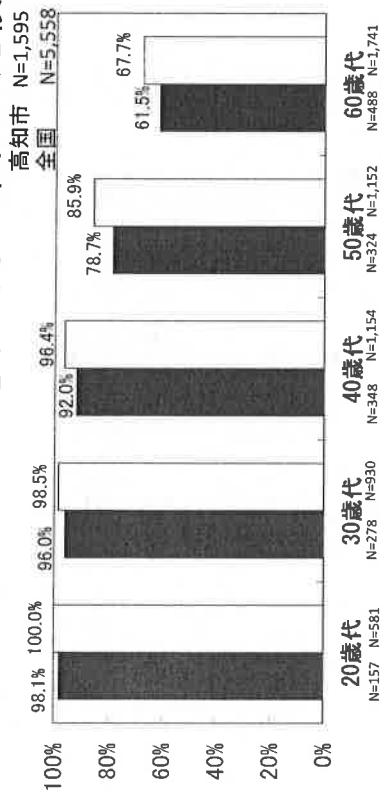
H24 N=1,579
H29 N=1,595



高知市:平成24・29年健康づくりアンケート調査

残存歯数

20本以上ある人の割合【年代別・全国との比較】



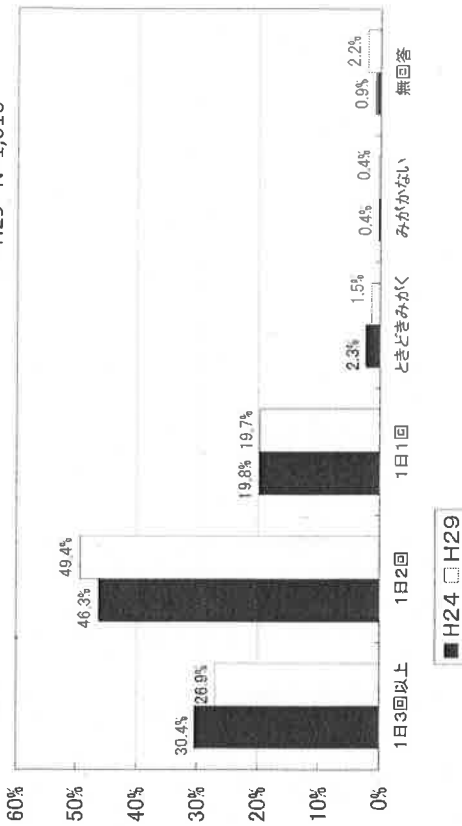
指標 歯の喪失防止

60歳代で自分の歯が「全部ある」「ほとんどある」人の割合

61.5% (H24年度) → 67.0% (H29年度) 【67.0% (H29年度目標)】

歯ブラシの使用状況

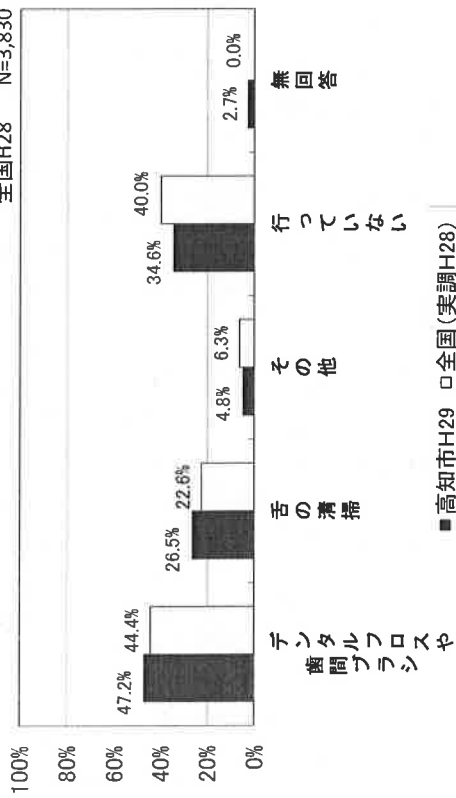
H24 N=1,590
H29 N=1,616



平成24・29年健康づくりアンケート調査

歯や口の清掃状況

高知市H29 N=1,616
全国H28 N=3,830

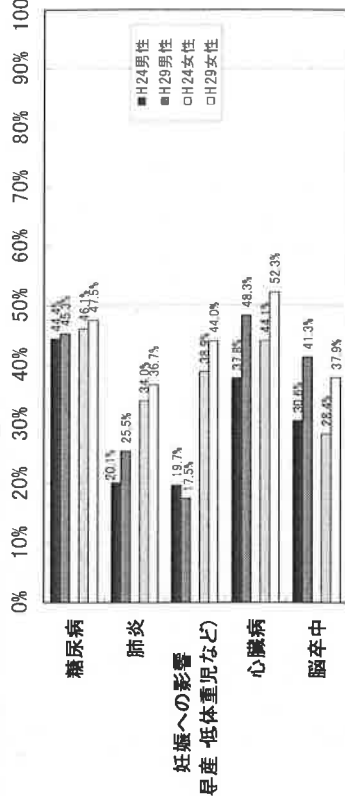


高知市:平成29年健康づくりアンケート調査

全国:平成28年歯科疾患実態調査より20歳から69歳を抜粋

歯周病の影響の周知度【性別・前回との比較】

H24 H29
男性 N=608 N=656
女性 N=972 N=945



指標 歯周病と全身への影響周知度の増加

糖尿病 45.4% (H24年度) → 46.5% (H29年度) 【60.0% (H29年度目標)】

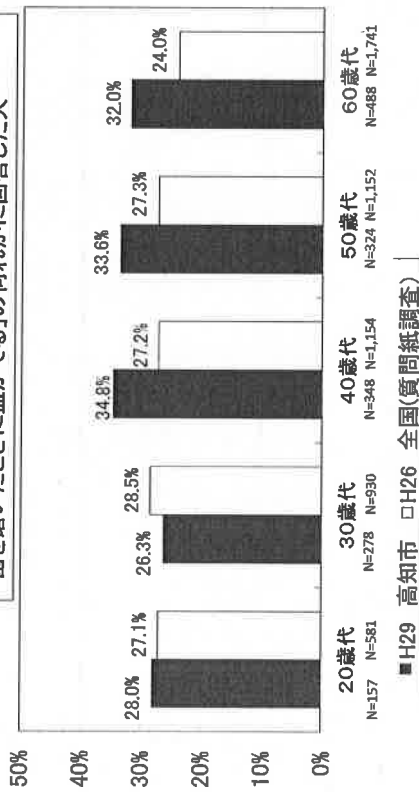
早産・低体重児出産

31.4% (H24年度) → 33.0% (H29年度) 【50.0% (H29年度目標)】

肺炎 28.5% (H24年度) → 32.1% (H29年度) 【50.0% (H29年度目標)】

歯肉に炎症所見のある人の割合 【年代別・全国との比較】

「歯肉に炎症所見のある人」とは、「歯ぐきが腫れている」「歯を磨いたときに血が出る」の何れかに回答した人



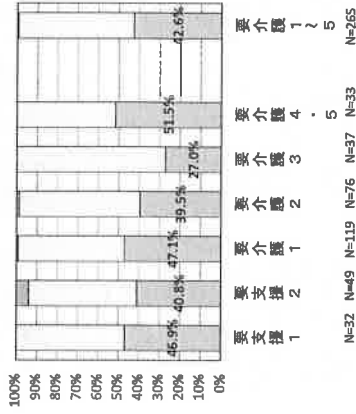
高知市：平成29年健康づくりアンケート調査
全国：平成26年国民健康・栄養調査

平成29年度 高知市在宅介護実態調査より

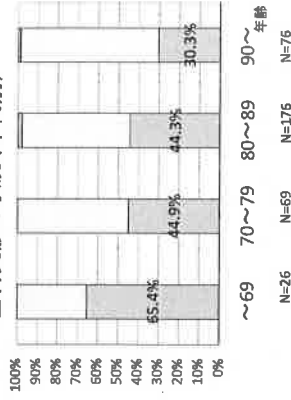
過去1年の歯科受診（訪問歯科診療を含む）の状況

要介護認定者で1年以内に歯科受診した人は42.6%であった。介護度別では介護度3が受診割合が低く、介護度があがるほど受診していない状況ではなかった。年代別では年代が高くなるほど受診していない現状であった。

歯科受診の状況（介護度別）



歯科受診の状況（年代別）



■ 歯科受診あり □ 歯科受診なし ■ 無回答

口腔保健支援センターの取組

口腔保健支援センターの取組 ～課題と今後の事業展開～

- ① 幼児期のむし歯予防
- ② 保育園・幼稚園・学校等でのむし歯予防
- ③ 小学校・中学校での歯肉炎予防
- ④ 歯周病について普及・啓発
- ⑤ 生活習慣病予防と連携した歯周病予防

(医歯薬連携)

平成29年9月
高知市口腔保健支援センター

現状と課題(幼児期)

- むし歯は徐々に減ってきている
- 不正咬合が増加している
- よく噛んで食べることができていない子供が多い？

現状と課題(学童期)

- 永久歯のむし歯は減少しているものの全国と比較すると多い
- 中学生の歯肉炎は減少しているがまだ多い
- 小学生の歯肉炎は増加している
- 給食後の歯磨きを実施している学校は他県と比較すると少ない

現状と課題(成人期)

- 何でもかんで食べることができている人がどの年代も全国と比較すると少ない(40～60歳代)
- 自分の歯が20本以上あるものがどの年代も全国と比較すると少ない(20～60歳代)
- 歯の健康づくりのために歯科受診しているものがあり増えている
- 歯周病と全身への影響の周知度があまり増えていない
- 歯肉に炎症所見のある人がどの年代も全国と比較すると多い(20～60歳代)

現状・課題に対する対策(案)

①幼児期

- むし歯は徐々に減少
⇒1歳6か月児健診の個別指導, フォローアップ事業の継続
- 不正咬合の増加
⇒よく噛んで食べていない子が多い?
⇒口呼吸の幼児・学童も多い
(不正咬合や歯肉炎が増える原因にもなる)
⇒口腔機能が未発達の子が多いのかも?

小児の口腔機能発達の取組が必要ではないか?

②学童期

- 永久歯のむし歯の減少
⇒フッ化物洗口の拡大
- **むし歯の多い校区への働きかけが必要**
- 小学生, 中学生の歯肉炎の減少
⇒歯磨き習慣の定着, よくかんで食べる習慣
- **学校で取組むための支援の強化**
全国小学生歯みがき大会への参加校を増やす
高知学園短期大学の指導をきっかけに学校での取組を強化
小学校で給食後の歯磨き実施は??

小児の口腔機能発達のためには

- 例えば...
- 口の体操の普及啓発(あいうべ体操)
 - 食べるための支援
正しい食べ方, 口腔機能の発達の大切さ
について学んでもらう(保護者, 関係者)
⇒各家庭での取組だけでは難しいのでは
⇒園で口の体操の普及や発達を促す食形態の工夫等の取組は難しいか?

モテル園等での取組?

③成人期

- ・自分の歯が20本以上ある人の増加
- ・歯肉に炎症所見のある人の減少
- ・定期的に歯科受診している人の増加

⇒ **定期的な歯科健診の必要性の啓発**

セルフケアの定着

- ・歯周病と全身への影響の周知度の増加

⇒ **歯周病と全身への影響を周知**

いろいろ取組を行ってはいるが、まだ一部の人への啓発しかできていない

あらゆる機会での普及・啓発が必要

いきいき健康チャレンジとの連携
健康教育・講座等も積極的に実施する

本人の意識・行動変容のためには

どんな取組が必要か？

⇒ **行政だけの取組でなく、関係機関のみなさんにも協力をお願いしたい**